



社会福祉協議会情報

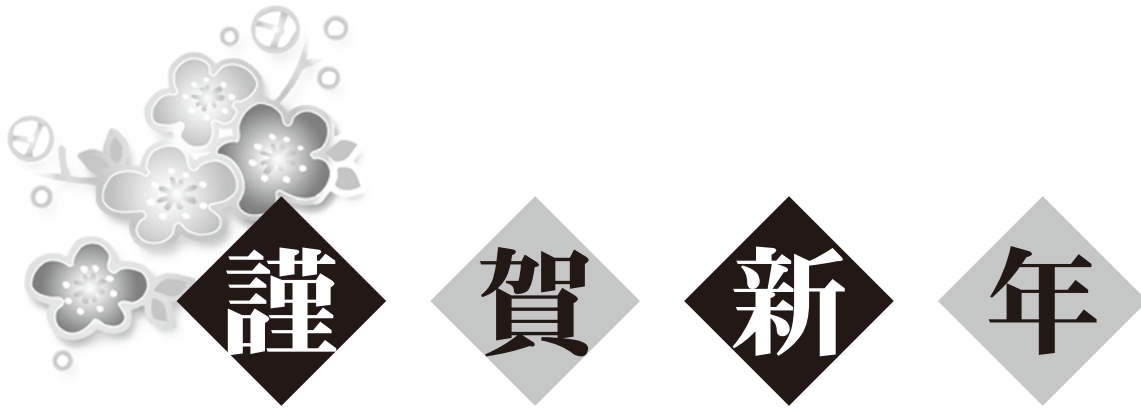
# ふれあい

## 福智町社会福祉協議会

- ・ 会長新年のあいさつ ————— 2
- ・ 社会福祉協議会の事業報告 ————— 5
- ・ 赤い羽根共同募金運動の御礼 ————— 3
- ・ ファミリーサポート事業のご案内 ——— 8
- ・ 相互扶助による地域づくりシンポジウム — 4

介護予防教室（春田地区） 田川高校2年生 職場体験学習





新年あけましておめでとうございます。  
健やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、福智町社会福祉協議会の運営並びに福祉事業の推進に際しまして、町民各位・行政・議会・関係機関団体等の多くの方々の格別のご協力とご理解を賜り、心より感謝いたしますとともに厚く御礼申し上げます。

さて、本年も先に策定いたしました「福智町地域福祉活動計画」を誠実にまた効果的に遂行してまいります。地域支え合い体制づくり事業を軸として、モデル地区による見守り支援ネットワークの拡充、地域に貢献できる福祉の人材育成、災害や防犯に強い地域づくり、いつまでも健康であるための介護予防など精力的に取り組んでまいります。

福智町社会福祉協議会が果たすべき使命は「地域で誰もが安心して暮らせることのできる福祉の町」であり、そのためには、住民参加や協働による福祉社会の実現や利用者本位の福祉サービスの実現、地域に根ざした総合的な支援体制の実現に向けた、たゆみない挑戦を行っていかねばなりません。これらの実現には、地域住民の方々や行政・議会・関係機関団体のご理解とご協力なくしては実現不可能と申しても過言ではございません。

今後も役職員一同、心をひとつにして鋭意努力してまいります所存でございますので何卒よろしくお願い申し上げます。

終わりに皆様方の益々のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げ新年のご挨拶にかえさせていただきます。

平成25年元旦

社会福祉法人 福智町社会福祉協議会

会 長 白 石 勝 彦





# 赤い羽根共同募金運動に ご協力いただきまして 誠にありがとうございました



平成24年10月1日より12月31日まで、全国一斉に赤い羽根共同募金運動が実施されました。

福智町においても、各家庭からの戸別募金・会社や店舗からの法人募金・街頭募金や学校募金など、様々なところから心あたたまる募金をいただきまして誠に有難うございました。集まりました募金は一旦、福岡県共同募金会へ送金させていただき、来年度配分金という形で福智町に戻ってきます。そして、様々な福祉事業に使われます。募金の詳細につきましては、3月号のきずなだよりでお知らせいたします。



期間中は、各行政区の区長さん、組長さん、また民生委員の皆さまに多大なご協力をいただきまして誠にありがとうございました。



福智町身体障害者福祉会では、毎年街頭募金にご協力いただいています。10月29日、スーパー川食赤池店とトレードマート方城店に分かれ募金活動をおこない、20,220円のご寄附をいただきました。誠にありがとうございました。



福智町民生児童委員協議会では、福智町文化祭でチャリティーバザーの出店をし、その売り上げを赤い羽根共同募金に寄附いただきました。今年も出店いただき、その売り上げ31,205円をご寄附いただきました。誠にありがとうございました。





# 相互扶助による地域づくりシンポジウム

## 地域コミュニティの形成とまちづくり

### ～安らぎのある豊かな地域づくり～

平成24年12月2日(日)、地域交流センターにて「相互扶助による地域づくりシンポジウム」を開催いたしました。財団法人地域社会振興財団の交付を受け、長寿社会づくりソフト事業として実施された本シンポジウムでは、少子高齢化、経済不況による離職者の増加、地域の人間関係の希薄化が進む今日、公的な制度だけではなく、地域住民の支え合いをもとに支援の輪を広げていく地域コミュニティをつくることを目的として開催しました。



第1部の「高齢者等日常生活実態調査分析結果報告」では福岡県立大学の山下清香准教授が、平成23年度におこなったアンケート調査をもとに講演をおこないました。外出頻度が低い人、日常生活で介助が必要な人、認知機能の低下を感じている人などは、そうでない人に比べ、転倒の経験割合が高く、転倒による骨折や痛み、自信喪失などによって、要介護状態になったり、寝たきりになることが報告されました。また一人暮らしの高齢者は身体的にも精神的にも、健康度が低い高齢者が多く、支援が必要であることも報告されました。

基調講演では筑紫女学園大学の山崎安則教授に「自立と尊厳を支える地域福祉の実践」と題して講演いただきました。迎える超高齢社会に向けて、地域コミュニティを構築していくことが大事であり、地域コミュニティを作っていくためには、挨拶をはじめとする人間関係づくり、つながりを作っていくことが大切だと話されました。「自分さえよければよい」というだけでは人生は全うできず、地域住民のお互いさまの相互扶助の関係が、安心や安全な地域づくりにつながり、個人の幸せにもつながってくることを話されました。



相互扶助による地域づくりシンポジウム パネルディスカッションの様子

パネルディスカッションでは、コーディネーターの山崎教授と、5人のパネリストが登壇しました。まず地域福祉活動計画推進委員会副委員長の木月政弘さんが、活動計画を策定する経緯とその計画の内容を話されました。次に地域支え合い体制づくり事業のモデル地区である3地区の代表の方が、それぞれの地域でおこなっている取り組みを紹介しました。方城25区の田島靖さんは、要支援者を把握する見守りマップの作成、また緊急情報カードの設置、要支援者とハートフルキーパーとの関係づくりなどを話されました。次に金田6区の荒巻久美子さんは地域の老人部、子供部、婦人部、青年部が一体と

なって活発に公民館活動をおこない、地域のつながりづくりをしていることなどを話されました。赤池18区の赤星重雄さんは地域の役員や組長を中心とした作業部会を立ち上げ、「地域でできることは地域で」を合言葉に見守りマップづくりや防犯パトロールの計画などを地域一体となって取り組んでいることを話されました。最後に福岡県社会福祉協議会の田中忠輔さんは、県社協が取り組む事業や、他市町村の地域福祉の進捗状況を話されました。ディスカッションの中では、ハートフルキーパーを始めとする地域の人材の育成や後継者の問題、将来を担う子供たちの育成などの意見交換もされました。

## 社会福祉協議会の事業報告

## 社協 Report



### 伊方小学校 4年生 障がい者疑似体験学習

平成24年11月2日(金)、伊方小学校の4年生が車いすと白杖を使った障がい者疑似体験学習をおこないました。車いすの体験では「もしみんなが足をけがして、車いすの生活になったら」「もし家族の誰かが車いすに乗っていて、車いすを押してあげることになったら」の想定のもと、車いすを自分で動かしてみたり、車いすを押しながら段差を越えてみたりしました。視覚障がい者の体験では、アイマスクをして白杖で移動したり、介助を受けながら階段を昇り降りしました。子どもたちからは「怖かった」「大変だった」などの感想が聞こえてきました。



### 田川高校の生徒が 社会福祉協議会で職場体験学習

平成24年12月6日(木)、田川高校の2年生8人が社会福祉協議会で職場体験学習をおこないました。田川高校2年生では今年度、地域の方々の生活や文化に触れ、地域の職場を体験することにより、いい出会いをし田川地域の発展につながっていかうという主旨のもと職場体験学習をおこなっています。この日社会福祉協議会を訪れた生徒は、介護予防教室・配食サービス・生きがいデイサービスなどを体験しました。市場在住の田中竣朔くんは「介護予防教室の参加者と一緒に体操をしてとても楽しかったです」と感想を述べていました。

## 社会福祉協議会の事業報告



### 介護予防教室がはじまっています

平成24年9月より町内9カ所にて介護予防教室がはじまっています。介護予防教室では寝たきりにならないよう、運動機能向上、栄養改善、口腔機能向上、認知症予防などのプログラムを組み入れ、週に1回3ヶ月間継続します。参加者の中には「階段を上るのが楽になった」「頻尿がなくなった」「食事の改善につながった」などの声も聞こえてきています。



### 福智町ボランティア連絡協議会が河川清掃

平成24年10月28日(日)、福智町ボランティア連絡協議会主催で、中元寺川・彦山川の河川敷の清掃活動がおこなわれました。他の行事と日程が重なり、参加者は30名と少なかったのですが、集めたゴミの袋はなんと40袋をこえました。地デジ化の影響でブラウン管テレビの不法投棄もありました。ふるさとの河川をきれいに！皆さんのボランティアへの参加お待ちしております。



### ボランティアセミナー開催中です

福智町ボランティア連絡協議会では、多くの人とまちづくりやボランティアについて考え、勉強する機会として「ひと・まちにやさしいボランティアセミナー」を開催中です。10月5日には田川赤池交番連絡協議会の中村美代子さんが「ボランティア活動中の事故に備えて～救急法・心肺蘇生法を学ぼう」と題して講演と実習をおこないました。参加者は人形を使って心肺蘇生法やAEDの使い方などを学習しました。

平成24年10月の社協広報で「使わなくなったチャイルドシートをゆずって下さい」との呼びかけをしたところ9個のチャイルドシートをご寄付いただきました。誠に有難うございました。ファミリーサポート事業で大切にさせていただきます。





### 生きがいデイサービス作品展示

平成24年11月3日、4日におこなわれた福智町文化祭で、生きがいデイサービスの趣味の教室で作成された作品がずらりと並べられました。書道、絵画、フラワーアレンジメント、レザークラフト、陶芸などの力作が展示されました。生きがいデイサービスでは介護予防を目的として、生きがいづくり・健康づくり・仲間づくりをおこなっています。詳しくは社会福祉協議会までお問い合わせ下さい（対象者は福智町在住で65歳以上の方で、役場に申請が必要です）。



### 認知症サポーター養成講座

平成24年10月26日（金）19：00より金田分館にて「認知症サポーター養成講座」を開催しました。講師に雁の巣病院の元看護師長の今林聖子さんをお迎えして、認知症に関する知識や認知症の人たちにどう接すれば良いのか、私たちに何ができるか？ などをお話いただきました。グループワークでは「物盗られ妄想のある認知症の方にどう接すればよいか」のテーマでグループ内で意見交換がされました。福智町では認知症になっても安心して暮らせるよう、認知症サポーターの育成に取り組んでいます。



### 福祉入門教室を開催しました

平成24年10月17日、10月24日、10月31日と3回にわたり「福祉入門教室」を開催しました。第1回はふくおか災害ネットワーク代表の酒井澄彦さんに災害とボランティアについて、災害時に私たちにできることをお話いただきました。第2回は人権と福祉のまちづくり総合計画推進委員会副委員長の葛原高さんに福祉計画から見る福智町の福祉の現状をお話いただきました。第3回目は社会福祉協議会事務局長の中野雅浩がいま地域が抱えている課題を示しながら、地域で支え合うことの必要性を話しました。

子育てを応援する新しい事業です

# ファミリーサポート事業が はじまりました



冠婚葬祭で子どもの面倒がみられない  
病院に行くときに一緒に連れていけない  
早出や残業で子どもの送迎ができない  
たまには気分転換がしたい

などで  
子どもをあずかってもらいたい  
と思ったことはありませんか？

ファミサポ事業では子育てサポーター養成講座を修了した  
「まかせて会員」さんが、あなたの子どもを預かります。

## 利用の流れ

※預かれる子どもは6ヶ月～小学6年生までです。

預かってもらいたい日時が決まったら  
ファミリーサポートセンター（福智町  
社会福祉協議会）までお電話ください。  
※初めてご利用の方は、オリエンテー  
ションを受けていただき会員登録をし  
ていただきます。

センターのコーディネーターは、その  
日時にあずかることのできる「まかせ  
て会員」さんを探し、依頼します。

会員さん同士で事前に打ち合わせ  
をします。

決められた日時で子どもを預かり  
ます。

援助が終了したらおねがい会員さ  
んはまかせて会員さんに料金の支  
払いをします。

現在「まかせて会員」さんは20名が会員登録をしています。  
「まかせて会員」さんの中には、保育士や幼稚園教諭の資格をも  
った方や、現役のママさんもいますので、安心して子どもを預けてく  
ださい。

詳しくは、福智町社会福祉協議会 地域福祉課  
TEL:22-3778

## 利用料金

月曜日～金曜日  
AM6:00～PM8:00  
1時間 500円  
上記以外  
1時間 800円



赤い羽根共同募金にご協力ありが  
とうございます。本誌は共同募金の配  
分金によって作成されています。

## 社会福祉協議会情報 ふれあい 第19号

平成25年1月発行

編集・発行 福智町社会福祉協議会 地域福祉課

所在地 ☎822-1201 福岡県田川郡福智町金田1154番地2  
TEL: 0947-22-3778 FAX: 0947-22-6678

ホームページ <http://wel-fukuchi.net/>